

統計茨城

昭和46年 12 月号

目 次

I 巻 頭 言	1	III 昭和45年国勢調査1%抽出集計結果 の概要	16
II 指 標		IV 第1回調査員研修会の開催	18
主要経済指標	2	V 第13回茨城県統計大会の開催	19
人 口	4	VI 第13回茨城県統計大会に出席して	19
金 融	6	VII 解析研究会の開催	20
農 業	8	VIII 工業統計・工業実態基本調査等の実 施について	21
鉱 工 業	9	IX 統計ニュース	21
労 働	10		
物 価	12		
家 計	14		

利用上の注意

- 1 統計表の数値は原則として単位未満は四捨五入。
- 2 年度は4月から翌年の3月まで。
- 3 記号
 - 零または該当数字のないもの。
 - 0 該当数字が掲載単位未満のもの。
 - … 不詳のもの。
 - p 暫定数字。
 - r 訂正数字。
 - △ 減少または出超を示す。
 - ✕ 秘密保持のため掲載をひかえたもの。



統計雑感

茨城県議会議員

下条正雄

統計といえば誰でもまず数字を連想します。統計学は数字を取り扱う学問であるということが常識となつているのみならず統計学を理解するには進んだ数学の知識が必要であると考えられており、また統計学は応用数字の一部門であるという見方をする学者もあるようです。

しかし反面、数学の取り扱う数字と統計学が取り扱う数字、すなわち統計とは根本的にその性質を異にするものであります。数学で扱う数字は単純な一般的なものであるのに反し、統計は具体的、個別的な実体をともなう特殊的なものであり、実際の事物あるいは出来事に対して個々の経験的、社会的観察によつて得られるものであります。従来、わが国は欧米諸国に比較して統計が貧困であつたということがいわれております。これは、日本人は非合理的で勘で物事を処理することが多く、それに対して欧米人は合理的で科学的資料を重要視するということに起因していると考えられます。

今日、統計は、人間の生存に食糧が必要であるように文明社会においては不可欠のものであります。ことに現代のように社会が複雑化してまいりますとなおさら正確な統計というものが重要になつております。

今日、本県は鹿島地域の開発、研究学園都市の建設、水戸、日立広域都市づくり等を中核に着々発展の道を歩んでおります。今後、県政の飛躍的進展にともない県行政はますます複雑多岐になり、正確な統計にもとづいた適確な判断と運営が必要となつてまいります。このためには、より科学的、客観的な統計がますます重要となり、いよいよその真価が発揮されるのであります。また、市町村行政、民間企業等におけるあらゆる事業につきましても、より健全な進展のために統計のはたす役割りがきわめて大きいことは申すまでもありません。

すべて独立した国家には、国家としての指標があるように、各地方自治体には各々その自治体住民が求める指標がなければなりません。そして、その指標が広く住民の共感を得るとき、その地域の発展をもたらすことは古今東西の史実が明らかにしているところであります。政治にたずさわる者の任務はまさに正確な資料をもとにした正しい指標を定め、住民に進むべき道を示し、これを果敢に実行することにあると存じます。

これからの政治は科学的に正確な統計の活用なくして考えられません。

政治にたずさわるわれわれはもちろんのこと県民のみなさんも統計の重要性を再認識していただき新しい時代に対応した行政が行なわれるようご協力を願つてやみません。

主要経済指標

主 要 経 済

茨 城 県

年 月	財政資金 対民間取 支戻	銀 行 勘 定		銀 行 券		手形交換高		不 渡 手 形		株 式 取引高	県 民 所 得	
		実 預 金	貸 出 金	増	減	枚 数	金 額	枚 数	金 額		純 生 産	配 分 所 得
昭和35年	百万円 15,581	百万円 75,617	百万円 51,718	百万円 2,937	千枚 198	百万円 70,264	枚 2,493	百万円 180	百万円 33,319	百万円 191,333	百万円 190,036	
36	14,468	94,148	67,838	2,687	230	75,303	2,535	152	48,336	244,863	227,341	
37	23,402	115,285	83,675	1,625	274	88,699	4,808	279	60,230	276,693	262,695	
38	△25,800	141,041	102,665	△ 998	311	101,448	5,974	319	40,999	297,111	291,117	
39	△32,758	165,627	112,699	△ 5,614	355	142,640	8,828	796	19,485	334,028	323,856	
40	△37,458	185,609	8,595	△ 6,228	380	147,872	10,404	847	34,770	※393,652	※419,662	
41	△42,214	217,545	123,688	△ 179	436	163,444	9,901	835	46,590	※447,505	※481,624	
42	△54,001	266,236	146,606	40	484	197,977	8,318	873	40,313	※566,265	※584,122	
43	△46,293	311,421	166,962	4,517	533	226,801	9,872	1,121	78,315	※688,471	※699,552	
44	△43,975	434,641	239,067	31,081	560	274,201	9,740	1,111	66,850	※806,702	※820,911	
45	△44,896	765,166	470,270	...	593	338,391	11,218	1,596	83,727	
46. 1	9,600	△20,222	994	△13,133	40	29,654	593	73	5,186	
2	△ 891	△ 4,841	3,664	△ 145	46	29,429	630	122	9,534	
3	△ 1,350	24,531	9,076	1,834	59	34,491	1,112	102	13,392	
4	△11,381	△ 4,327	△ 4,464	524	50	33,784	737	91	16,933	
5	4,561	9,167	4,589	△2,830	51	32,611	823	93	10,861	
6	△ 7,049	7,256	6,838	7,853	56	36,430	883	110	15,195	
7	2,386	6,576	9,221	△4,768	112	46,264	1,633	235	16,867	
8	5,765	429	7,197	△1,732	101	37,413	1,568	204	5,403	
9	

注) ①貸金指数、雇用指数の昭和46年については昭和45年=100とした数値である。 ②※は年度数値

資料：日本銀行水戸事務所、県統計課 県職業安定課

全 国

年 月	財政資金 対民間 収支戻	全国銀行主要勘定		全国銀行 貸出約定 平均金利	銀 行 券 発 行 高	手 形 交 換 高		不 渡 手 形	
		実質預金	貸 出 金			枚 数	金 額	枚 数	金 額
昭和35年	億円 ※△ 51	億円 78,990	億円 81,826	(%) 8.17	億円 12,341	千枚 203,728	億円 669,673	千枚 2,172	億円 1,852
36	※ 4,909	90,796	97,701	8.00	14,801	221,016	862,205	2,121	2,084
37	※△2,033	106,720	114,946	8.21	17,459	242,368	1,016,246	2,525	2,805
38	※△ 614	136,996	145,626	7.79	20,574	265,933	1,189,982	2,878	3,492
39	※△4,394	156,533	168,297	7.90	22,988	290,466	1,430,983	3,726	5,271
40	※△2,662	183,754	192,179	7.80	25,638	302,975	1,510,970	4,077	5,574
41	※ 2,220	213,186	220,460	7.48	29,135	327,352	1,646,702	3,830	5,540
42	※ 752	240,650	253,230	7.32	34,115	346,690	1,885,942	3,746	6,435
43	※△3,478	281,893	290,328	7.46	40,419	364,011	2,252,989	3,752	7,371
44	※△1,312	328,541	337,844	7.41	48,113	379,264	2,620,324	3,274	6,218
45	※1,447	380,094	394,793	7.66	55,560	394,166	3,189,805	3,407	7,796
46. 1	9,164	369,726	398,241	7.685	47,966	25,481	237,865	198	441
2	699	373,826	402,775	7.676	49,247	30,397	258,504	246	576
3	△3,065	392,048	411,751	7.663	49,748	36,600	342,184	362	819
4	△6,544	398,221	414,179	7.655	49,963	32,080	303,015	289	683
5	△4,039	411,923	422,003	7.640	48,473	32,762	287,228	298	711
6	△ 926	420,229	431,980	7.618	52,089	35,850	309,659	281	748
7	2,396	425,491	442,104	7.598	52,689	34,143	307,446	288	694
8	△11,070	51,483

注) ※印は年度数値

資料：日本銀行統計局 通商産業省 総理府統計局

標 指 濟

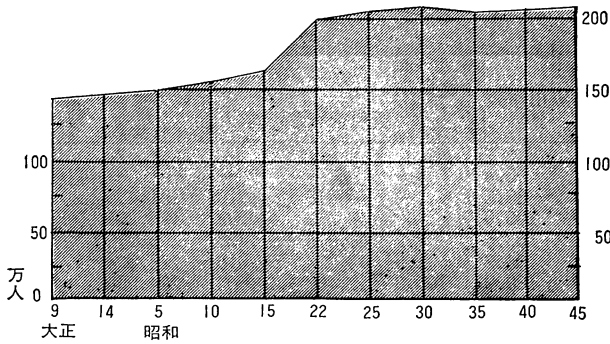
百貨店 売上高	鉱工業 生産指数 (総合)	建築着工		賃金指数	雇用指数	消費者 物価指数 (水戸・総 合・平均)	労働市場			年月
		工事 予	費額 床面積				新規求職 人	新規求人 人	失業保險被 保險者総数 人	
百万円		百万円	千㎡							昭和35年
—	66.9	11,170	910	66.1	68.4	—	—	—	—	36
2,975	84.7	12,670	1,037	70.5	86.2	—	40,616	64,919	191,435	37
3,354	84.4	16,089	1,149	74.9	100.0	—	46,273	46,079	198,261	38
3,770	92.3	20,244	1,297	83.1	103.6	88.7	43,615	51,423	203,670	39
4,341	97.0	22,551	1,419	90.1	105.9	91.5	43,724	55,018	223,904	40
4,799	100.0	27,632	1,581	100.0	100.0	100.0	42,433	42,684	224,096	41
5,472	110.8	31,319	1,746	113.3	93.5	104.4	41,509	54,048	230,225	42
7,427	135.8	49,094	2,523	130.3	94.2	107.9	41,518	70,569	241,722	43
8,686	149.4	78,198	3,389	154.6	103.6	114.9	40,173	68,369	254,759	44
11,396	175.9	106,653	4,175	177.6	109.1	122.3	40,124	80,277	277,854	45
13,108	207.2	141.1	132.0	42,154	78,980	294,646	
1,032	204.7	11,968	396	105.5	101.2	138.9	4,806	6,532	295,773	46. 1
971	229.6	12,242	340	107.8	101.0	139.0	4,034	5,103	296,848	2
1,297	244.3	11,471	385	105.8	101.1	138.6	4,469	6,288	297,074	3
1,112	222.6	12,849	407	109.8	101.9	142.0	3,848	5,435	302,238	4
1,071	202.1	12,788	352	105.5	101.7	142.1	3,462	5,270	306,412	5
996	228.6	17,488	391	118.5	101.8	141.1	3,657	4,372	309,024	6
1,153	243.9	15,494	466	119.5	102.5	141.9	3,830	5,405	309,697	7
897	...	15,737	358	111.0	102.0	142.1	4,070	5,785	308,408	8
...	149.0	5,152	7,079	...	9

国民総生産		百貨店 売上高	鉱工業 生産指数 (総合)	建築着工		賃金指数 (名目・ 製造業)	雇用指数 (常用・ 製造業)	消費者 物価指数	失業保險被 保險者総 数	年月
名目	実質			工事 予	費額 床面積					
億円	億円	億円		億円	千㎡				千人	昭和35年
162,070	203,483	4,075	57.8	8,089	61,461	61.8	74.3	—	12,385	36
198,528	232,751	5,006	69.0	12,077	76,872	68.9	83.5	—	13,872	37
216,595	246,095	5,818	74.8	13,822	76,645	75.4	89.5	—	15,264	38
255,759	277,636	6,788	83.3	16,259	86,835	83.2	93.1	90.3	16,237	39
295,305	306,436	7,701	96.4	22,602	102,663	92.0	97.8	93.8	17,349	40
326,504	322,945	8,603	100.0	22,558	102,300	100.0	100.0	100.0	18,035	41
381,179	359,901	9,563	113.2	24,642	109,737	111.6	100.6	105.1	18,614	42
448,015	407,007	11,047	135.2	33,282	137,398	126.3	103.9	109.3	19,337	43
527,882	462,935	12,839	159.2	42,889	160,470	145.1	108.2	115.1	20,064	44
624,333	521,404	15,142	185.9	53,401	182,748	168.9	112.0	121.1	20,765	45
727,177	571,944	18,242	215.9	66,697	205,034	198.7	115.6	130.4	21,173	
...	...	1,393	208.0	7,224	18,566	166.0	p115.2	136.2	20,926	46. 1
...	...	1,352	220.0	3,978	11,635	160.9	p114.5	135.9	20,882	2
...	...	1,823	239.8	5,004	14,062	161.5	p114.7	135.6	20,956	3
...	...	1,574	222.8	5,388	15,429	165.6	p117.8	137.8	21,290	4
...	...	1,485	210.0	5,134	14,649	171.1	p117.1	137.6	21,594	5
...	...	1,520	229.7	5,964	16,625	281.3	p116.8	137.5	21,793	6
...	...	2,192	230.6	6,690	18,690	346.8	p116.3	138.2	...	7
...	6,403	17,637	138.6	...	8

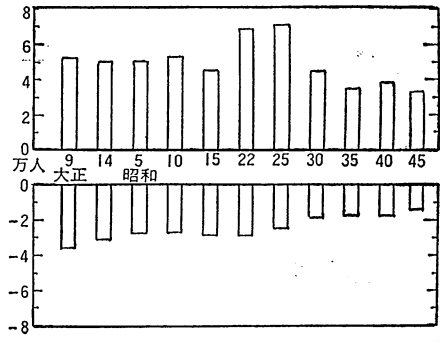
人 口

1 人 口

人口の推移



出生と死亡の推移



1-1 人口、世帯および人口移動

年 月 日	世 帯 数	人 口			人 口 移 動				
		総 数	男	女	増減数	自 然 動 態		社 会 動 態	
						出 生	死 亡	転 入	転 出
大正 9. 10. 1.	世帯 269,860	人 1,350,400	662,128	688,272		52,291	35,960	—	
14	276,120	1,409,092	693,837	715,255	△38,225	50,937	31,034	(-)58,128	
昭和 5	279,895	1,487,097	734,059	753,038	△31,227	50,445	27,308	(-)54,564	
10	286,471	1,548,991	766,423	782,568	△22,614	53,532	27,274	(-) 2,447	
15	287,677	1,620,000	801,914	818,086	1,393	45,148	29,101	(-) 9,853	
22	376,758	2,013,735	974,289	1,039,446	72,902	69,164	28,475	(-)32,213	
25	375,861	2,039,418	933,694	1,045,724	△ 8,034	60,325	24,784	(-)56,184	
30	382,315	2,064,037	1,006,093	1,057,944	△ 2,440	44,592	18,732	19,545	
35	409,465	2,047,024	1,000,184	1,046,840	291	35,664	17,709	17,704	
40	447,871	2,056,154	1,007,852	1,048,302	7,761	34,447	16,533	(-)10,153	
45. 9. 1.	502,434	2,149,196	1,059,707	1,089,489	4,437	3,017	1,118	9,750	7,212
46. 9. 1.	524,747	2,177,497	1,073,376	1,104,121	3,678	3,265	1,248	9,394	7,733

資料：県統計課 注) 人口移動のうち①大正9年～昭和40年については各年の年間数値を示す。

②昭和45年8月、46年8月については45年7月、46年7月の月間数値を示す。

1-2 市町村別人口

市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年9月	46年9月	市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年9月	46年9月
総 数	2,047,024	2,056,154	2,149,196	2,177,497	竜ヶ崎市	33,581	34,917	37,343	37,566
市 部	881,682	932,336	990,494	1,046,485	那珂湊市	34,522	33,620	33,287	32,774
郡 部	1,165,342	1,123,818	1,158,702	1,131,012	下妻市	30,011	28,260	27,350	27,659
水戸市	139,389	154,983	174,560	178,176	水海道市	37,577	36,584	36,427	36,804
日立市	161,226	179,703	192,664	196,609	常陸太田市	38,541	36,974	35,911	35,272
土浦市	71,474	78,971	90,102	12,032	勝田市	43,286	52,625	65,361	70,241
古河市	42,474	50,202	54,874	54,522	高萩市	32,816	32,497	29,978	29,489
石岡市	34,758	36,789	39,051	40,186	北茨城市	60,507	55,334	48,435	47,752
下館市	51,257	51,717	54,466	54,354	笠間市	32,143	31,082	31,231	30,531
結城市	38,060	38,078	39,454	40,097	取手市	22,582	26,179	40,404	42,421

人 口

市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年 9月	46年 9月	市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年 9月	46年 9月
東茨城郡	134,192	128,687	128,467	127,835	稲敷郡	112,565	110,082	111,301	113,754
常澄村	9,850	9,393	8,865	9,076	江戸崎町	13,017	12,266	12,313	12,083
茨城町	30,845	29,439	28,943	29,180	美浦村	9,178	8,411	8,165	8,090
小川町	15,762	15,447	17,119	16,653	阿見町	22,326	23,390	24,610	25,532
美野里町	14,680	14,381	15,159	14,916	牛久町	16,131	17,203	19,508	20,616
内原町	12,921	12,695	12,761	12,868	荃崎村	6,338	6,253	6,442	6,559
常北町	11,832	11,154	11,040	10,785	新利根村	9,489	8,943	8,532	8,570
桂村	8,785	7,938	7,850	7,055	河内村	13,065	12,158	11,401	11,676
御前山村	7,227	6,425	5,688	5,613	桜川村	8,900	8,178	7,795	7,837
大洗町	22,290	21,815	21,042	21,689	東村	14,121	13,280	12,535	12,791
西茨城郡	59,662	58,685	59,306	59,425	新治郡	83,382	79,312	78,798	80,941
友部町	19,007	19,714	20,563	20,522	出島村	18,260	16,861	16,379	16,659
岩間町	13,656	13,719	14,546	14,194	玉里村	5,233	5,080	5,262	5,481
七会村	4,029	3,469	3,013	3,077	八郷町	30,670	28,741	26,404	27,268
岩瀬町	22,970	21,783	21,184	21,632	千代田村	11,620	11,451	13,466	14,134
那珂郡	105,533	103,571	105,551	105,042	新治村	8,400	8,240	8,281	8,410
東海村	13,978	16,565	19,408	20,225	桜村	9,199	8,939	9,006	8,989
那珂町	30,556	30,006	31,163	31,394	筑波郡	89,642	84,937	84,349	85,229
瓜連町	6,988	6,832	7,043	7,081	谷田部町	20,570	20,093	20,217	20,287
大宮町	24,594	23,635	24,203	23,256	伊奈村	12,010	11,241	11,201	12,353
山方町	13,016	11,805	10,560	10,403	谷和原村	10,746	10,062	10,200	9,949
美和村	8,364	7,515	6,989	6,445	豊里町	11,165	10,497	10,274	10,400
緒川村	8,037	7,213	6,185	6,238	筑波町	23,817	22,091	21,738	21,333
久慈郡	74,230	67,875	61,894	59,585	大穂町	11,334	10,953	10,719	10,887
金砂郷村	14,748	13,554	12,733	12,055	真壁郡	76,660	73,394	72,699	72,041
水府村	11,636	10,580	9,395	9,091	関城町	14,979	14,368	14,131	14,307
水里村	7,668	6,980	6,199	6,019	明野町	17,513	16,682	16,054	16,089
大子町	40,178	36,761	33,567	32,420	真壁町	21,959	20,809	20,647	20,273
多賀郡	11,006	10,346	10,126	9,649	大和村	8,064	7,522	7,350	7,225
十王町	11,006	10,346	10,126	9,649	協和町	14,145	14,016	14,515	14,147
鹿島郡	118,457	113,010	128,867	137,237	結城郡	52,189	49,080	48,594	48,251
旭村	11,747	10,759	10,340	10,102	八千代村	24,438	22,687	22,111	21,874
鉾田町	28,657	26,939	27,378	26,187	千代川村	8,447	7,912	7,646	7,769
大洋村	10,212	9,331	8,730	8,835	石下町	19,304	18,481	18,837	18,608
大野村	10,679	9,779	9,836	9,774	猿島郡	119,892	117,272	123,623	125,645
鹿島町	16,132	16,305	24,288	28,919	総和町	20,703	21,023	24,529	26,561
神栖町	16,326	15,820	21,340	24,408	五霞村	9,157	8,668	8,581	8,385
波崎町	24,704	24,077	26,955	29,012	三和町	19,269	18,380	18,668	18,685
行方郡	72,016	68,169	67,852	68,876	猿島町	14,810	14,053	13,673	13,606
麻生町	20,182	18,852	17,798	17,980	岩井町	33,366	33,469	35,750	36,371
牛堀町	6,796	6,466	6,467	6,718	境町	22,587	21,689	22,422	22,037
潮来町	17,671	17,111	18,578	19,927	北相馬郡	33,334	33,219	36,873	37,502
北浦村	12,401	11,611	11,017	10,755	守谷町	11,449	11,475	12,243	12,529
玉造町	14,966	14,129	13,992	13,496	藤代町	12,606	13,002	16,258	16,751
					利根町	9,279	8,742	8,372	8,222

注) 各年とも国勢調査結果。ただし45年、46年については推計人口

資料：県統計課

金融

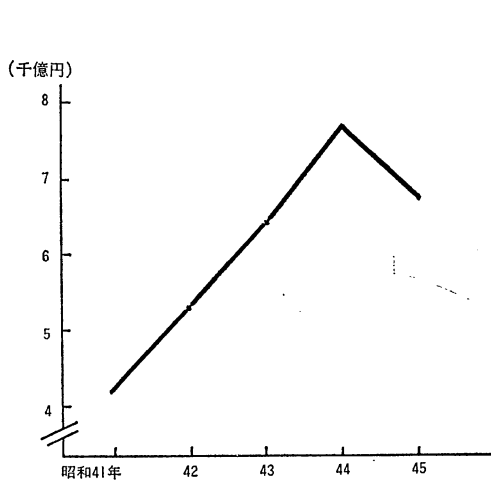
2 金融

2-1 金融機関預金

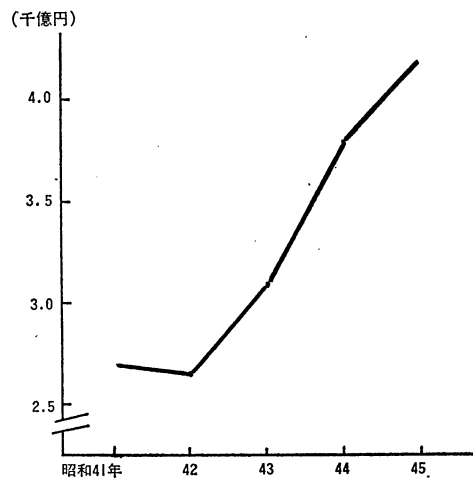
年 月	総 額				銀 行		相 互 銀 行		信 用 金 庫	
	預 金	対前年 同月比	貸 出 金	対前年 同月比	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金
昭和41年12月末	41,967	—	27,277	—	21,490	12,289	3,340	2,431	2,952	2,161
42	52,846	124.2	26,731	124.1	26,386	14,582	4,077	2,931	3,727	2,812
43	63,887	—	31,407	—	30,816	16,607	5,016	3,609	4,407	3,243
44	77,765	121.7	38,346	122.1	36,589	20,496	6,518	4,553	5,496	4,082
45	p 68,365	p 87.9	p 42,989	p 112.1	p 43,539	25,691	8,168	5,952	6,843	5,170
46・1	65,232	…	46,039	…	44,017	25,920	8,802	6,471	6,977	5,706
2	70,357	…	48,777	…	45,603	26,070	9,026	6,623	7,707	6,324
3	92,263	…	50,541	…	46,774	28,925	10,231	7,040	7,924	6,675
4	96,700	…	51,840	…	49,014	29,035	11,772	7,564	8,308	6,970
5	102,547	…	51,498	…	52,863	31,782	12,437	7,775	8,475	7,109
6	91,251	…	48,398	…	46,488	27,166	8,693	64,928	7,177	5,388
7	92,786	…	49,231	…	47,157	28,098	8,657	66,124	7,307	5,465
8	92,954	…	49,271	…	46,598	28,131	8,752	67,264	7,453	5,558
9	96,447	…	50,355	…	48,147	28,603	9,281	70,442	7,644	5,671

資料；大蔵省関東財務局水戸財務部

金融機関預金残高の推移



金融機関貸出金残高の推移



農 業

3 農 業

3-1 農産物の平均販売価格

(単位：円)

年 月	うるち米 (玄米60kg)	小 麦 (玄麦3等 程度60kg)	ばれいしよ (男爵10kg)	だいこん (葉付10kg)	生 乳 (飲用10kg)	鶏 卵 (10kg)	肉 豚 (生体10kg)	乳用牛 (めす・生 後4月~6 月ホルス タイン純 種)
昭和40年12月	6,460	2,042	233	196	385	1,935	2,199	45,615
41	6,350	2,124	266	207	407	1,896	1,910	57,777
42	7,264	2,067	240	159	...	2,189	2,324	62,875
43	7,667	2,393	250	95	491	2,002	2,929	71,067
44	8,467	2,408	266	130	500	2,341	2,469	66,330
45	8,233	2,505	273	250	498	2,386	2,698	63,000
46. 1	8,233	498	1,755	2,124	63,400
2	8,233	471	2,017	2,503	63,400
3	8,267	485	1,866	2,671	63,400
4	8,167	492	1,621	2,739	64,500
5	8,117	497	1,703	2,800	64,500
6	7,800	...	450	...	499	1,665	2,970	65,500
7	7,867	3,857	250	...	503	1,603	2,552	66,000
8	7,867	3,857	533	1,702	2,734	69,667
9	8,467	3,857	533	2,188	3,031	69,667
10	8,433	397	533	1,924	2,627	69,667

資料：関東農政局茨城統計調査事務所 注) 昭和43年以降の価格は、それぞれの代表生産地における価格である。

3-2 農業用品の購入価格

(単位：円)

年 月	乳用牛 (成畜めす ホルスタ イン純種)	子 豚 (めす・生 後50~70 日中ヨー クシャー)	硫 安 (N21%か ます40kg)	過りん酸 灰 (かます40 kg可溶性 りん酸17 %)	複合肥料 (N8%.P 8%.K5 %30kg)	配合飼料 (成鶏用20 kg粗たん 白15%以 上)	配合飼料 (乳牛用30 kg粗たん 白13%以 上)	バラチ オン剤 (46.6又は 46.7%乳 剤 単位 100cc)
昭和40年12月	152,701	5,446	800	561	807	797	1,028	191
41	171,375	3,904	801	572	710	802	1,024	188
42	216,625	5,927	774	582	612	797	1,015	173
43	246,250	8,600	748	582	666	778	1,078	190
44	201,250	7,750	728	576	656	794	1,055	200
45	193,750	6,200	723	638	621	945	746	200
46. 1	193,750	5,800	723	638	621	945	746	200
2	193,750	6,600	723	648	621	945	746	200
3	193,750	6,408	723	638	621	945	746	200
4	201,040	6,670	723	640	621	945	746	200
5	194,100	6,940	723	640	621	945	746	200
6	200,090	7,014	723	640	621	945	746	200
7	205,000	9,875	723	660	640	945	764	200
8	205,000	10,000	743	660	638	951	764	...
9	205,000	10,125	736	665	638	951	764	...
10	205,000	8,625	736	665	638	935	758	...

資料：関東農政局茨城統計調査事務所 注) 昭和43年以降の価格は農業地域代表市町村の価格である。
昭和43年以後子豚の価格はランドレース (F1ランドレース系) 60~90日程度の価格である。

4 鉱工業

4-1 鉱工業生産指数

(昭和40年=100)

年 月	産業総合	公益事業	鉱工業								
			鉱業	石炭・ 亜炭	炭 鉱業	金属 鉱業	非金属 鉱業	製造工業	鉄鋼業	非鉄金 属工業	金属製 品工業
品目数	129	2	127	10	1	5	4	117	4	7	5
ウエイト	100.0	0.39	99.61	5.48	56.59	28.34	15.07	94.52	1.72	7.31	3.27
昭和35年	67.0	92.6	66.8	87.2	91.0	87.6	54.9	64.9	62.6	52.5	—
36	84.7	89.7	84.6	89.8	92.6	90.9	66.0	84.2	80.4	73.6	—
37	84.5	90.0	84.4	90.3	90.2	98.6	68.6	83.9	80.4	56.6	—
38	92.3	77.9	91.6	92.2	92.6	99.8	76.7	91.5	83.8	72.8	—
39	97.0	95.3	97.1	99.0	95.6	100.4	111.2	92.5	106.8	101.3	—
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	110.8	266.9	110.2	101.2	107.0	104.2	73.7	110.7	117.1	107.7	157.6
42	135.8	617.7	133.9	98.9	99.5	100.6	93.8	135.9	133.9	130.5	173.2
43	149.4	427.8	147.5	92.1	86.7	96.7	103.6	150.8	138.2	134.3	130.7
44	175.9	585.4	174.3	97.0	89.1	98.9	123.3	178.8	174.7	154.8	211.5
45	194.1	522.1	192.8	96.9	87.9	94.0	136.1	198.4	251.5	149.6	199.1
46 1	204.7	1,475.5	199.7	95.1	91.3	89.2	120.1	205.8	237.1	138.1	299.8
2	229.6	2,477.1	220.8	96.0	95.4	92.6	104.9	228.0	269.9	135.4	272.5
3	244.3	2,530.7	235.3	112.6	112.9	102.1	131.4	242.4	260.9	145.6	240.0
4	222.6	2,368.1	214.2	98.5	91.7	97.8	125.3	220.9	264.3	171.6	302.3
5	202.1	2,610.0	192.7	89.5	79.3	95.0	117.6	198.7	230.9	150.0	323.4
6	228.6	2,431.6	220.0	102.4	96.2	102.0	126.8	226.8	292.3	153.9	323.5
7	243.9	3,901.9	229.6	104.4	102.6	97.5	123.9	236.9	292.7	147.9	262.3
8

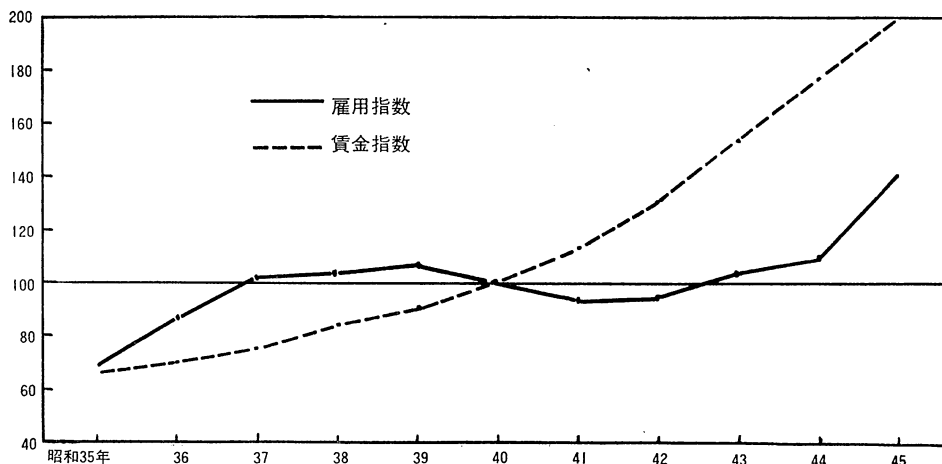
年 月	製 造 工 業											
	機 械 工 業				窯 業	化 学	石油石炭	皮 革	パルプ・ 紙・紙加	繊維工業	食料品	煙 草
	一般機械	電気機械	輸送機械	精密機械	製品工業	工 業	製品工業	工 業	工品工業	工業	工業	工業
品目数	15	24	5	5	4	11	1	2	3	12	9	1
ウエイト	8.48	38.91	2.04	2.69	4.69	2.72	0.18	0.48	1.26	10.55	3.89	1.83
昭和35年	51.0	71.9	26.0	9.3	85.1	93.3	13.0	37.5	51.2	77.6	75.1	...
36	79.4	103.4	50.4	14.5	85.4	99.8	12.5	44.2	61.7	110.4	79.6	...
37	74.3	101.9	56.0	60.7	84.1	84.7	112.2	64.6	76.6	128.2	89.4	...
38	86.3	104.4	69.5	99.0	85.7	88.0	00.4	82.7	83.0	137.1	92.2	113.7
39	101.0	102.2	80.7	120.9	91.8	92.8	197.3	93.1	99.4	110.1	96.4	92.4
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	00.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	105.7	110.3	115.2	108.0	102.1	116.5	93.5	85.8	127.5	98.3	106.9	112.0
42	132.3	137.5	147.4	106.0	111.0	121.6	74.7	64.7	144.3	106.3	131.1	191.6
43	149.4	176.8	193.6	78.2	124.8	135.2	91.1	71.9	160.8	139.6	149.1	222.8
44	205.8	188.2	231.1	78.0	126.5	198.1	81.8	74.3	188.7	181.7	191.2	...
45	283.5	194.4	265.0	91.7	134.4	308.2	81.5	77.0	207.2	195.3	208.3	...
46. 1	245.6	176.4	233.0	78.1	105.9	925.0	103.3	71.8	205.8	215.4	224.0	...
2	331.4	202.1	260.7	84.3	150.7	962.6	67.1	64.7	181.2	227.8	227.4	...
3	325.5	215.8	337.6	107.6	161.2	1,054.4	65.0	79.5	224.3	184.9	265.9	...
4	275.4	195.7	227.5	96.6	127.1	1,061.6	65.8	191.7	204.5	145.2	207.7	...
5	249.8	150.4	187.0	100.8	108.3	955.3	62.8	04.6	192.5	193.9	200.1	...
6	299.5	172.0	253.3	98.7	120.0	1,382.8	65.4	89.2	205.8	156.5	209.7	...
7	275.2	194.7	258.9	80.8	131.2	1,353.5	67.1	88.2	184.7	186.0	218.0	...
8

資料：県統計課

5 労働

産業別雇用・賃金指数の推移

(昭和40年=100)



5-2 産業別雇用

年 月	総 雇 用		合 賃 金		鉱 業		建 設 業		製 造 業	
	雇 用	対前月(年)比較	賃 金	対前月(年)比較	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金
基準年次実数	155,584	—	32,542	—	12,196	37,797	6,047	30,625	103,093	29,999
昭和35年	68.4	—	66.1	—	93.0	60.4	88.9	53.7	60.4	68.2
36	86.2	17.8	70.5	4.4	92.3	66.8	114.7	62.9	82.0	74.6
37	100.6	13.4	74.9	4.4	93.3	71.5	114.6	66.5	101.6	77.3
38	103.6	3.0	83.1	8.2	92.2	83.4	117.9	77.0	102.9	85.4
39	105.9	2.3	90.1	7.0	96.8	91.3	112.9	91.5	105.7	90.2
40	100.0	△5.9	100.0	9.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	93.5	△6.5	113.3	13.3	105.8	107.3	84.3	98.9	93.9	116.2
42	94.2	0.7	130.3	17.0	97.2	119.4	71.7	123.1	98.7	136.1
43	103.6	9.4	154.7	24.4	87.2	139.0	78.2	145.0	112.9	164.0
44	109.1	5.5	177.6	22.9	81.8	167.7	79.1	164.9	120.7	190.0
45	141.1	32.0	207.2	29.6	40.9	206.8	158.9	224.8	147.5	215.2
46. 1	101.2	1.2	105.5	5.5	96.4	106.5	112.4	104.7	101.4	104.9
2	101.0	△0.2	107.8	2.3	94.8	107.8	113.0	105.7	101.1	108.2
3	101.1	0.1	105.8	△2.0	92.2	113.0	111.1	106.2	100.5	105.1
4	101.9	0.8	109.8	4.0	88.0	107.0	106.8	109.2	101.3	109.7
5	101.7	△0.2	105.5	△4.3	85.1	110.0	101.6	106.0	101.6	104.4
6	101.8	0.1	118.3	12.8	82.5	108.2	98.9	117.4	101.3	120.0
7	102.5	0.7	119.5	1.2	82.6	123.3	98.8	122.5	102.4	120.7
8	102.0	△0.5	111.0	△8.5	44.9	124.4	98.9	124.0	101.4	118.2

資料：県統計課 注) ①規模30人以上の事業所 ②昭和46年については昭和45年平均=100とした数値である

労働

5-1 労働時間

(単位：1人1カ月当たり)

年 月	全産業	前月(年) 比 較	鉱 業	建設業	製造業	卸 売 小売業	金融・ 保険業	運輸・ 通信業	電気・ ガス・ 水道業	所定内労働時間	
										全産業	製造業
昭和35年	191.5	...	185.6	188.9	195.6	190.9	175.6	186.9	160.4	167.2	166.9
36	190.0	△ 1.5	184.9	182.1	192.7	189.7	180.4	190.2	159.2	166.1	164.5
37
38
39	193.5	...	199.8	181.2	191.3	192.6	180.1	197.8	178.5	174.9	172.8
40	186.4	△ 7.1	199.2	174.2	180.7	197.4	166.2	192.1	174.0	172.0	168.0
41	187.2	0.8	201.0	165.7	175.4	195.4	151.8	190.3	166.6	170.7	164.3
42	191.7	4.5	193.8	161.1	196.3	191.6	169.6	194.2	176.0	171.1	174.6
43	194.1	2.4	195.8	172.4	196.5	190.2	165.4	197.0	171.1	171.2	172.5
44	191.3	△ 2.8	195.6	158.8	192.8	198.6	163.4	192.7	168.6	167.8	168.3
45	189.4	△ 1.9	195.3	192.1	189.8	188.3	171.8	193.5	172.2	169.2	168.9
46. 1	173.2	△18.9	190.3	183.6	170.0	181.7	158.5	186.7	164.0	156.2	153.7
2	189.4	16.2	195.7	195.6	191.5	193.7	153.4	186.3	162.6	169.8	171.7
3	182.8	△ 6.6	204.6	194.3	181.4	179.4	176.3	187.4	183.1	165.0	163.9
4	191.4	8.6	193.6	195.8	190.3	194.5	175.2	201.7	186.5	174.4	175.0
5	169.1	△22.3	192.1	175.2	165.0	176.5	167.7	183.8	169.5	156.3	154.3
6	191.8	22.7	200.6	198.8	192.1	191.4	176.3	194.5	175.2	175.2	176.0
7	189.0	△2.8	196.8	203.7	191.0	159.7	175.7	194.6	188.3	172.8	175.9
8	179.3	△9.7	185.0	201.3	175.6	187.1	167.0	191.9	170.8	164.3	161.7

資料：県統計課 注) 規模30人以上の事業所

賃 金 指 数

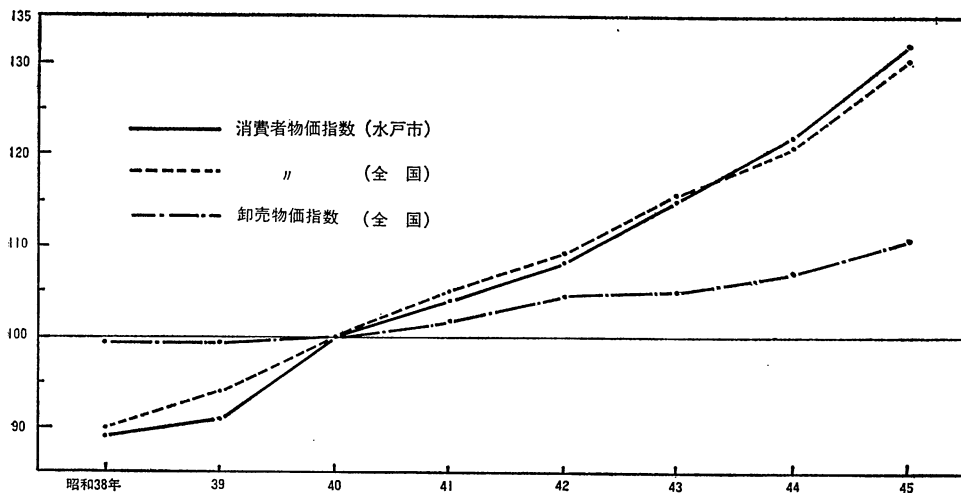
(昭和40年=100)

卸 売・小 売 業		金 融・保 險 業		運 輸・通 信 業		電 気・ガ ス・水 道 業		年 月
雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	
7,426	29,061	5,112	41,419	19,012	40,528	1,943	55,638	基準年次実数
96.2	53.9	74.8	57.1	75.7	60.3	92.9	62.4	昭和35年
109.7	57.0	84.0	61.1	89.5	66.7	88.7	67.6	36
111.5	60.7	86.9	72.4	99.8	77.4	82.8	72.1	37
110.0	59.9	92.9	79.4	117.3	83.5	76.4	72.1	38
108.7	87.9	103.4	89.5	116.6	90.3	83.5	88.9	39
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	40
87.4	99.5	90.7	105.6	82.1	111.6	115.5	115.2	41
92.6	105.9	89.1	111.1	76.0	127.9	122.3	130.2	42
102.7	128.6	87.9	142.4	76.4	145.7	122.7	140.5	43
122.0	153.0	85.5	163.0	75.1	168.5	120.8	160.8	44
212.5	196.5	187.7	194.7	129.6	198.6	133.0	179.9	45
98.5	107.9	100.9	101.4	98.4	109.6	97.9	100.8	46. 1
97.6	106.3	102.0	100.1	98.9	111.1	99.3	101.9	2
101.3	108.0	109.2	104.1	99.0	108.4	98.2	100.6	3
106.2	111.9	113.0	110.3	100.0	111.4	93.9	102.8	4
105.1	110.4	112.0	109.3	99.4	108.2	97.4	101.2	5
104.8	111.6	113.9	125.2	103.0	115.1	97.3	99.6	6
104.3	114.5	113.9	116.6	102.3	117.7	99.1	109.2	7
102.6	114.9	114.8	116.4	101.8	119.7	100.2	107.6	8

物 価

6 物 価

消費者物価指数と卸売物価指数の推移



6-2 消 費 者

1. 水 戸 市

(昭和40年=100)

年 月	総 合	対前月(年)比較	食 料	住 居	光 熱	被 服	雑 費
品目数	362		146	45	8	62	101
ウェイト	10,000		4,074	1,161	502	1,297	2,966
昭和38年	88.7	—	85.4	92.9	99.3	88.3	90.7
39	91.5	2.8	89.2	93.4	99.3	91.1	92.8
40	100.0	8.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	104.4	4.4	103.2	105.3	97.2	103.8	107.1
42	107.9	3.5	107.1	109.2	98.4	105.3	111.3
43	114.9	7.0	115.3	116.4	99.4	110.7	118.3
44	122.3	7.4	124.1	125.8	101.1	117.8	124.2
45	132.0	8.7	135.9	138.5	103.5	126.3	131.4
46.1	138.9	2.8	144.0	146.0	108.0	136.0	135.7
2	139.0	0.1	144.9	146.1	108.0	133.2	135.9
3	138.6	△0.4	143.4	146.7	108.1	134.7	135.8
4	142.0	3.4	144.4	147.1	108.6	137.5	144.2
5	142.1	0.1	143.4	151.2	108.8	136.1	145.0
6	141.1	△1.0	140.5	151.1	109.1	137.4	145.1
7	141.9	0.8	142.2	152.0	110.3	137.4	145.0
8	142.1	0.2	142.9	152.1	110.3	136.4	144.9
9	149.0	6.9	158.1	152.4	110.3	141.2	145.0

資料：県統計課

6-1 費目別物価上昇寄与率（水戸市）

品 目	40年	41	42	43	44	46.5	46.6
総 合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食 料	51.8	28.9	45.7	47.4	48.2	—	—
その 他の 食料	主 食	13.2	8.6	7.1	12.9	9.1	—
	生 鮮 魚 介 類	8.1	1.2	8.7	10.6	8.3	—
	肉 類	0.5	1.2	4.2	4.7	3.3	—
	野 菜	13.5	—	11.4	—	1.5	—
	果 物	2.0	8.7	—	0.6	2.5	—
住 居	9.0	13.6	12.7	11.9	14.7	65.8	—
家 賃 地 代	5.7	7.7	3.4	2.5	1.8	—	—
設 備 修 繕	0.4	4.0	8.3	8.2	10.0	65.8	—
光 熱	0.4	—	1.1	1.0	1.2	1.4	—
被 服	13.6	10.9	5.5	10.3	12.4	—	—
雑 費	25.2	46.6	35.0	29.4	23.5	32.8	—
交 通 通 信	1.4	15.1	6.2	2.4	1.3	6.5	—
教 育	3.8	10.7	11.2	10.3	4.8	23.3	—
教 養 娛 楽	14.2	19.3	15.4	8.4	11.9	—	—

資料：県統計課

注) 昭和40年基準

物 価 指 数
2. 全 国

消 費 者 物 価 指 数 (昭40年=100)				卸 売 物 価 指 数 (昭40年=100)	戦 前 基 準 指 数 (昭9~11年平均=1.0)		年 月
全 国 合 計	対前月(年)比較	人口5万人 以上の都市	東京都区部		消費者物価 指 数 (東京区部)	卸 売 物 価 指 数	
				74.0	74.0
...	...	77.9	77.9	98.9	345.0	355.7	36
...	...	83.2	83.0	97.3	368.2	349.7	37
90.3	...	89.5	89.6	99.0	397.3	356.0	38
93.8	3.5	92.9	93.3	99.2	413.3	356.7	39
100.0	6.2	100.0	100.0	100.0	443.2	359.4	40
105.1	5.1	105.1	104.8	102.4	464.4	368.1	41
109.3	4.2	109.2	109.1	104.3	483.5	374.7	42
115.1	5.8	115.0	115.2	105.1	510.5	377.9	43
121.1	6.1	121.3	121.6	107.4	538.9	385.9	44
130.4	9.3	130.7	130.4	111.3	577.9	399.9	45
134.8	0.9	135.8	135.3	111.1	599.6	399.3	45. 12
136.2	0.1	136.6	136.6	110.9	605.4	398.6	46. 1
135.9	△ 0.3	136.3	136.1	110.7	603.2	397.9	2
135.6	△ 0.3	136.0	135.9	110.5	602.3	397.1	3
137.8	△ 2.2	138.3	138.5	110.8	613.8	398.2	4
137.6	△ 0.3	138.0	138.1	110.8	612.0	398.2	5
137.5	△ 0.1	137.9	138.0	110.6	611.6	397.5	6
138.2	0.7	138.6	139.1	110.7	616.4	397.9	7
138.6	0.4	139.1	138.1	110.9	612.0	398.6	8
143.9	5.3	144.5	145.4	110.6	647.9	397.5	9

資料：総理府統計局

7 家 計

家 計 主 要 指 数

1 全 国

年 月	勤 勞 者 世 帯							全 世 帯		消費者	備考
	実 収 入 (円)	可 処 分 所 得 (円) ⁽¹⁾	消 費 支 出 (円)	黒 字 (円) ⁽²⁾	平 均 消 費 性 向 (%) ⁽³⁾	実 質 実 収 入 指 数 (%) ⁽⁴⁾	実 質 消 費 支 出 指 数 (%) ⁽⁴⁾	消 費 支 出	エ ン ゲ ル 係 数 (%) ⁽⁵⁾	物 価 指 数	
昭和38年	53,298	49,076	41,105	7,971	83.8	90.6	92.2	40,246	38.7	90.3	
39	59,704	54,873	45,511	9,362	82.9	97.8	98.3	44,481	38.1	93.8	
40	65,141	59,557	49,335	10,222	82.8	100.0	100.0	48,396	38.1	100.0	
41	71,347	65,073	53,599	11,474	82.4	104.2	103.3	52,516	37.3	105.1	
42	78,725	72,039	58,763	13,276	81.6	110.6	109.0	57,071	36.8	109.3	
43	87,599	80,416	65,477	14,939	81.4	116.9	115.3	63,607	35.5	115.1	
44	97,667	89,865	72,603	17,262	80.8	123.8	121.6	70,386	34.6	121.1	
45	112,949	103,634	82,582	21,052	79.7	133.0	128.4	79,531	34.1	130.4	
45. 11	93,082	85,378	77,982	7,396	91.3	106.3	117.6	77,058	35.2	134.4	
12	266,450	245,392	134,312	111,080	54.7	303.4	201.9	122,985	31.3	134.8	
46. 1	91,618	83,872	77,752	6,120	92.7	103.3	115.7	76,473	30.5	136.2	
2	91,157	83,284	73,742	9,542	88.5	102.9	109.9	72,386	34.9	135.9	
3	107,124	97,636	90,540	7,096	92.7	121.2	135.3	87,406	32.4	135.6	
4	98,837	89,343	88,157	1,186	98.7	110.1	129.7	85,896	32.5	137.8	
5	97,181	88,810	82,679	4,131	93.1	108.4	121.8	81,328	35.8	137.6	
6	160,706	147,675	91,927	6,131	62.2	179.4	135.5	85,931	33.4	137.5	
7	
2 水 戸 市											
昭和38年	67,692	61,266	44,260	17,006	72.2	108.0	92.5	40,899	34.2	88.7	
39	64,909	59,002	48,315	10,687	81.8	100.4	97.9	45,445	35.9	91.5	
40	70,600	63,966	53,892	10,074	84.2	100.0	100.0	49,643	35.5	100.0	
41	79,293	71,153	57,745	13,408	81.1	107.5	102.5	52,952	35.5	104.4	
42	86,917	78,824	62,943	15,881	79.8	113.7	107.8	59,567	34.2	107.9	
43	91,826	84,035	68,285	15,750	81.3	113.2	110.3	64,906	33.1	114.9	
44	98,937	88,721	73,957	14,764	83.4	114.6	112.2	71,823	31.8	122.3	
45. 11	103,483	92,869	80,950	11,919	87.2	107.8	110.4	77,777	31.3	136.0	
12	290,572	263,447	132,698	130,749	50.4	302.4	180.9	127,406	27.5	136.1	
46. 1	109,813	99,938	76,337	23,601	76.4	111.9	101.9	74,135	30.6	138.9	
2	97,951	88,411	80,648	7,763	91.2	99.7	107.6	76,604	30.8	139.0	
3	116,456	105,312	101,585	3,727	96.5	119.0	136.0	94,281	27.9	138.6	
4	104,552	89,523	88,735	788	99.1	104.2	115.9	86,917	29.8	142.0	
5	105,321	96,152	85,919	10,233	89.4	105.1	112.2	84,027	33.2	142.1	
6	202,826	184,858	97,732	87,127	52.9	203.6	128.5	86,602	30.3	141.1	
7	

資料：総理府統計局 注) (1) 実収入－非消費支出 (2) 可処分所得－消費支出
 (3) 消費支出÷可処分所得 (4) 当該項目(40年=100)÷消費者物価指数
 (5) 食料費÷消費支出

1ヵ月1世帯当たりの収入と支出（勤労者世帯）

水 戸 市

収 入

年 月	集 計 世帯数	世 帯 人員数	世帯主 の年令	収入(支出)		実 収 入	勤め先収入	事業・内 職 収 入	他 の 実収入	実収入以 外の収入	前月から の繰入金
				総 額	円						
昭和38年	61	4.24	42.6	93,967	67,692	55,464	1,607	10,621	10,101	16,174	
39	57	4.26	42.5	96,413	64,909	59,058	1,069	4,782	15,521	15,983	
40	57	3.99	42.2	108,204	70,600	64,756	1,921	3,923	19,483	18,121	
41	54	3.99	41.7	115,607	79,293	74,295	1,112	3,886	14,704	21,610	
42	54	3.88	42.0	125,294	86,917	80,407	1,804	4,646	18,087	20,289	
43	58	4.05	41.5	133,352	91,826	87,176	1,284	3,366	16,143	25,382	
44	67	3.89	41.8	149,178	98,937	88,203	2,272	8,462	22,877	27,365	
45.11	70	3.73	43.8	161,223	103,483	98,873	2,493	2,117	21,086	36,655	
12	68	3.87	43.4	353,128	290,572	273,784	3,208	13,581	24,864	37,692	
46.1	61	3.99	44.1	168,814	109,813	98,485	636	10,692	16,728	42,273	
2	68	3.96	44.1	166,388	97,951	93,210	1,489	3,252	25,273	43,165	
3	68	3.93	43.7	193,092	116,456	105,949	1,786	8,720	36,215	40,421	
4	67	3.90	42.3	167,789	104,552	95,316	1,755	7,481	28,167	35,070	
5	67	3.90	42.2	154,575	105,301	92,660	4,842	7,799	14,749	34,525	
6	65	3.89	43.3	263,639	202,826	193,297	3,728	5,801	29,246	31,568	

支 出

年 月	実支出	消 費 支 出						非消費 支 出	実支出 以外の 支 出	繰越金	現 物 総 額	備 考
		計	食料費	住居費	光熱費	被服費	雑 費					
昭和38年	50,686	44,260	14,488	5,172	1,928	5,428	17,244	6,426	26,039	17,242	3,418	
39	54,222	48,315	15,487	6,158	2,147	5,936	18,587	5,907	25,086	17,105	3,710	
40	60,526	57,892	17,182	6,698	2,414	6,725	20,873	6,634	28,330	19,348	4,269	
41	65,885	57,745	18,308	5,629	2,650	6,677	24,481	8,140	28,492	21,230	3,879	
42	71,036	62,943	16,637	6,411	2,799	7,150	26,947	8,092	32,615	21,643	4,277	
43	76,668	68,285	21,503	7,712	2,642	7,624	28,804	8,383	31,295	25,389	4,906	
44	81,659	73,957	21,938	9,389	2,775	8,023	31,852	7,702	37,692	29,826	4,648	
45.11	91,564	80,950	24,336	8,757	3,019	12,824	32,014	10,614	30,403	39,257	5,478	
12	159,823	132,698	34,877	20,380	5,131	19,578	52,732	27,125	153,955	39,350	39,350	
46.1	86,213	76,337	22,540	5,122	4,005	7,147	37,524	9,875	36,706	45,895	7,537	
2	90,188	80,648	23,817	4,179	4,327	9,522	38,802	9,540	37,113	39,087	5,453	
3	112,719	101,585	25,519	7,864	4,557	12,227	51,419	11,134	42,099	38,273	6,058	
4	103,764	88,735	25,479	9,232	3,101	10,886	40,036	15,029	27,051	36,974	6,551	
5	95,088	85,919	27,606	4,210	2,680	8,596	42,827	9,169	29,047	30,441	6,231	
6	115,699	97,732	26,624	7,748	2,545	10,411	50,404	17,967	106,967	40,973	6,765	
7	

注) 収入の世帯数人員数, 年令, は支出にも該当する。

昭和45年国勢調査1%抽出集計結果の概要

県統計課人口学事統計係

昨年10月1日に実施された国勢調査の結果については、さきに人口確定数が公表されたが、このたび年令、産業および世帯の構成など1%抽出集計の結果（全世界の100分の1にあたる世帯の調査票を抽出集計して全体を推計したもの）が総理府統計局から公表された。

このうち、本県の結果の概要は次のとおりである。

なお、1%抽出集計の数字は、抽出集計による推計数であるため、後日公表される全数集計の結果とは、必ずしも一致しない。

また、表中の個々の数字は1,000未満を四捨五入した

ため、その合計が総数とは一致しないので、利用にあたってはとくに注意されたい。

年令別人口

——年少人口は減少，老年人口は増加——

本県の人口2,144千人を年令構成に分けてみると、年少人口（0～14才）は542千人、生産年令人口（15～64才）は1,414千人、老年人口（65才以上）は173千人で、総人口に占める割合は、それぞれ25.5%、66.4%、8.1%である。

表1 年令構成の推移 (単位 千人)

年	実数				割合			
	総人口	0～14	15～64	65才以上	総人口	0～14	15～64	65才以上
昭和25年	2,039	747	1,179	113	100.0	36.6	57.8	5.6
30	2,064	729	1,212	123	100.0	35.3	58.7	6.0
35	2,047	672	1,241	134	100.0	32.8	60.6	6.6
40	2,056	580	1,328	148	100.0	28.2	64.6	7.2
45	2,144	542	1,414	173	100.0	25.5	66.4	8.1
昭40～45の増加 (△は減少)	88	△38	86	25	—	△2.7	1.8	0.9

これは5年前にくらべて年少人口は38千人減少し、反面、生産年令人口および老年人口は増加をみた、

表1は、昭和25年以降の年令構成をみたものであるが、昭和25年には年少人口が747千人あつたのが、年ごとに減少して、昭和45年には542千人となり、逆に老年人口が増加するいわゆる人口老齢化となつてきている。

これはひとり本県だけでなく、全国的な傾向となつている。

人と子どもの数を示す従属人口指数 $\left(\frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年令人口}} \times 100 \right)$ は、全国の45.0に対し50.6と大きくなつてい

産業別就業者指数

——大きい第1次産業就業者の減少——

15才以上の就業者は総数1,100千人あり、これを産業3部門別にみると、第1次産業403千人、第2次産業310千人、第3次産業386千人である。

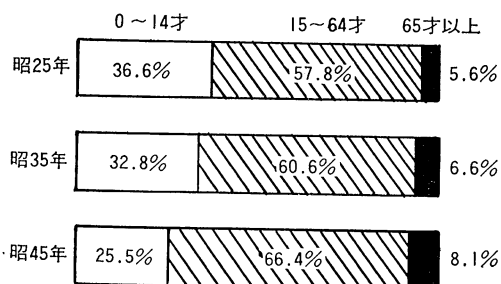
5年前にくらべ就業者は83千人の増加となつたが、これを産業別にみると、第2次産業は81千人、第3次産業は69千人とそれぞれ増加したのに対し、第1次産業では68千人、率にして14.4%の減少をみせている。

なお、昭和25年に就業者総数の69.9%もあつた第1次産業就業者が、昭和45年には大きく減少して36.7%となり、農林漁業から他産業への移動がとくにめだつている。

また、産業をさらに大分類に分けてみると、この5年間にとくに増加の目立つたのは、製造業、卸小売業、建設業、サービス業などであり、逆に減少したのは、農業、林業、狩猟業、漁業および鉱業である。

就業者の従業上の地位は、雇用者は前回より123千人

年令構成の推移



なお、全国の年令構成は年少人口23.9%、生産年令人口69.0%、老年人口7.1%となつており、全国と本県の割合をみると、年少人口、老年人口は本県が多く、生産年令人口は少ない。したがつて働ける人1人が養う老

表 2

産業（9部門）別15才以上就業者数

(単位 千人)

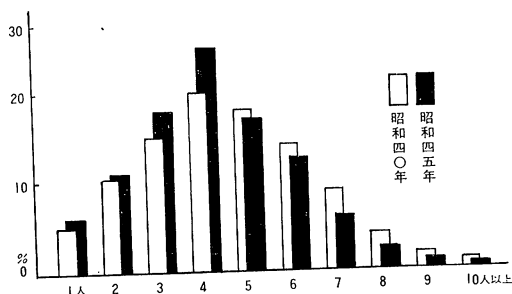
年	実 数				割 合			
	就 業 者 数 総	第 1 次	第 2 次	第 3 次	就 業 者 数 総	第 1 次	第 2 次	第 3 次
昭 和 2 5 年	958	670	109	179	100.0	69.9	11.4	18.7
3 0	967	618	121	228	100.0	63.9	12.5	23.6
3 5	1,018	574	170	267	100.0	56.4	17.4	26.2
4 0	1,017	471	229	317	100.0	46.3	22.5	31.2
4 5	1,100	403	310	386	100.0	36.7	28.2	35.1
昭和40～45の増加 (△は減少)	83	△ 68	81	69	—	△ 9.6	5.7	3.9

増加して533千人、自営業主は266千人で5千人の増、家族従業者は300千人で前回より44千人の減となった。

世 帯

— 1～4人までの世帯は増加、5人以上の世帯は減少—
普通世帯（1人世帯を含む）は492千世帯で、この5年間に52千世帯増加し、1世帯あたりの平均世帯人員は、5年前の4.55人から4.20人に減少した。

世帯人員別普通世帯数の割合



なお、世帯人員別に普通世帯数の割合をみると、1～4人までの世帯は昭和40年よりも増加し、5人以上の世帯は減少している。

これは、世帯の核家族化などによるもので、年々世帯の細分化がみられる。

また、家族構成別にみると、核家族世帯（夫婦のみ、夫婦と子ども、片親と子どもの世帯）は283千世帯で最も多く、全体の57.6%を占め、その他の親族の世帯は178千世帯（36.3%）、単独世帯は30千世帯（6.1%）となっている。

表 3 家族構成別普通世帯数 (単位 千人)

年	総 数	核家族世帯	その他の親族世帯	単独世帯
昭和45年	492	283	178	30
割合	100.0	57.6	36.3	6.1

一方、経済構成別にみると、農林就業者世帯は91千世帯

で、農林・非農林就業者の混合世帯は87千世帯で、あわせて36.1%となり、農林業以外に就業している「非農林就業者世帯」は299千世帯で60.6%、このほか非就業者は16千世帯3.3%となつている。

表 4 経済構成別普通世帯数 (単位 千人)

年	総 数	農 林 就 業 者 世 帯	農 林 非 農 林 就 業 者 世 帯	非 農 林 就 業 者 世 帯	非 就 業 者 世 帯
昭和45年	492	91	87	299	16
割合	100.0	18.4	17.7	60.6	3.3

住 宅

— 持ち家、借家は増加、間借りは減少 —

普通世帯の住んでいる住宅491千を所有関係別にみると、持ち家が最も多く362千世帯で、全世帯の73.6%を占め、借家は97千世帯、19.7%、給与住宅は30千世帯、6.1%、間借りは3千世帯で0.6%となつている。

昭和43年に実施された住宅統計調査と比較してみると、持ち家は15千、借家は16千、給与住宅は3千とそれぞれ増加し、間借りは2分の1の3千に減少しており、住宅事情は次第に緩和されてきている。

なお、住宅の居住密度も若干改善されて、1人あたりの量数は5.2畳から5.7畳となつた。

また、全国と本県を比較してみると、持ち家は、全国58.0%に対し県は73.6%と高く、借家は、全国33.6%に対し19.7%で県が低く、また、間借りも、全国1.2%に対し0.6%となつており、住宅事情については、全国を上回っている。

表 5 住宅の所有関係別普通世帯 (単位 千)

年	総 数	持 ち 家	借 家	給 与 住 宅	間 借 り
昭和45年	491	362	97	30	3
割合	100.0	73.6	19.7	6.1	0.6

第1回統計調査員研修会の開催

県主催による初の試みである統計調査員研修会は、さる11月10、11の両日76名の調査員が参加し、実施された。

この研修会は調査員の資質の向上と調査員の組織化を図ることを目的に実施したもので、調査員の選任難が全国に波及している折から、その確保対策の一つとしても時宜を得たものであった。

11月10日当日は雨が予想されたが、運よく快晴にめぐまれた。

さて、統計局の見学は、最初に関戸統計局長の歓迎のことばで始まった。

局長は「日頃の調査に対する調査員のみなさんのご協力を感謝している。お蔭で統計の利用は日増しに増大し、国会での討議には統計資料は不可欠となっている。また、今年8月に実施された国際統計協会総会において各国の統計関係者から、日本の国勢調査は正確性において世界一の評価を受けた。統計の先進国であるアメリカのセンサスなどがなかなか正確性を得られないのに反し、わが国の国勢調査がスムーズに進展していることは全く喜びにたえない。これからみなさんが見学する統計局は、今年創設百年を迎えることになったが、今後も、よりいっそう迅速で正確な統計の作成に努力するので、みなさんのご助力を賜りたい」と統計の現状について説明があつた。

このあと、統計局職員の案内により45年国勢調査の製表状況、穿孔室、電子計算機による処理状況および調査票保管倉庫など局内各所を見学した。

翌11日熱海市で開かれた研修会では「統計調査員の組織化」にテーマをしばり討議をした。冒頭、あいさつに立つた田口統計課長はこの研修の意義について述べ、調査員の組織化について……「現在県内92市町村のうち組織がある市町村が34、未組織の市町村58と組織化をみない市町村が全体の63%となっている。この第1回研修会の機会にどうか組織づくりにご協力願いたい」と結び参加者全員のわれるような拍手のなかであいさつを終り、つづいて組織をもつ各市町村の調査員から活発な発言があつた。その内容は組織化のいきさつや現状などであり、研修旅行や永年勤続者の表彰および研究会などが調査員相互の親睦と研さんに大きな役割りを果していることについて特に説明したものであつた。その他組織のある市町村調査員から発言を求める声があつたが時間のつごうにより割愛された。

これらの成果のほかに、参加者を大いに喜ばせたことは各市町村の代表のかたがたと初めて一堂に会する機会をもつたことである。車中や夕食の席上で、それぞれの市町村の様子や組織の必要性、統計調査のあり方などを話題に話し合う風景はまるで旧知の仲のようだった。

このように所期の成果を、十分に達成したことは下記に参加者アンケートの結果が如実に示している。最後に



〔統計局穿孔室の見学〕

この研修会にご協力くださった市町村統計関係者のみなさんのご協力に対し厚くお礼申し上げますと同時に、明年は全市町村の参加をもつてより盛大に開催できることを期待するものである。

昭和46年度統計調査員研修会結果

(アンケート調査による)

出席統計調査員数		76名		
1 研修結果について	有意義であつた	74名		
	意義がなかつた	0		
	その他	2		
2 開催時期は何月ごろがいいですか。	11月	53名	3月	3名
	10月	13	5・7・9月	2
	8月	4	4・6月	1
3 日帰りと宿泊の研修のどちらを希望しますか。		宿泊	75名	
		日帰り	1	
4. 研修地について	県外	69名	県内	4名
			どちらでもよい	3名
5. 懇親会の経費一部負担(1,500円)について	この程度はやむを得ない。			59名
	一部負担をふやして盛大にやる。			
	その他			
6. 研修に対する要望・意見	毎年実施してほしい。			29名
	各市町村2名あて参加させてもらいたい。			
	事前に調査員である目印を配布してくれ。			
	余裕ある日程で十分に研修をしたい。			
	意見交換の時間を多くしてもらいたい。			
	新任者・中堅層を対象とした研修をおねがいしたい。			
	市町村統計係員も出席させてくれ。			
	統計局の視察良好			
未記入			17	

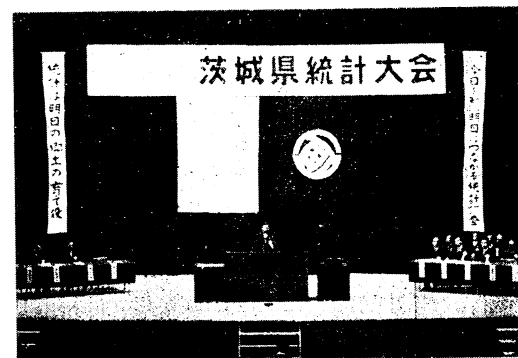
第13回茨城県統計大会の開催

県と県統計協会の共催による第13回茨城県統計大会は、11月5日午前10時から、水戸市千波町の茨城県立県民文化センター大ホールで盛大に開催された。

大会は大会参加を熱望する調査員の要請に応えるため、従来の小ホールから大ホールに会場を移し、約千名の参加者を迎えて挙行された。

あいさつに立つた岩上県知事は「日頃、何かと人の目立たぬところで常にご協力賜わっているみなさま方に心から深く感謝と敬意を払っている。物事を判断する唯一のよりどころである統計を基礎としてよりよい県政をつくりあげていきたい。統計は事実を物語るものである。この事実というものは何人も否定することはできない。この中立的できわめて正確な統計こそわれわれの生活を支える柱である」と述べた。

ついで各種の調査に功労のあつた統計職員や調査員に表彰状が贈られ、また、茨城県統計グラフコンクールで三席までに入選した児童・生徒の表彰もあわせて行なわれた。そして、行政管理庁長官、県議会議長などの祝辞



【知事のあいさつ】

も述べられた。

グラフコンクールに入選した児童・生徒の研究発表は入選者にふさわしく、てきぱきした説明で場内の耳目を集めていた。また、大会初の試みであるアトラクションには県警音楽隊が出演し、花をそえた。

なお、大会で決議された宣言は次のとおりであつた。

宣 言

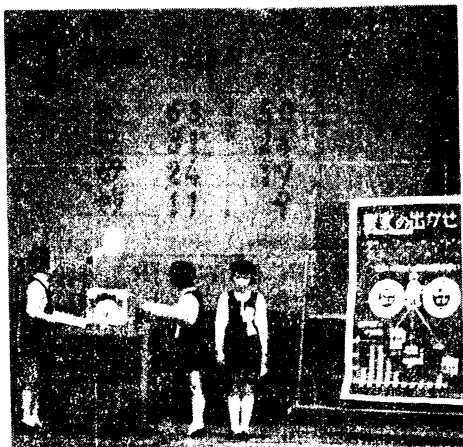
社会経済情勢の急激な変ぼうのもとで、統計の果たす役割りはまことに重大である。

このとき第13回茨城県統計大会にあたり、われわれは統計の意義と使命をさらに自覚し、決意を新たにして次のとおり宣言決議する。

1. 地域社会の変動に即応できる統計情報の整備充実につとめる。
2. 社会のあらゆる層に対し、統計の理解と関心を高め、統計の高度な利用促進をはかる。

昭和46年11月5日

第13回茨城県統計大会



【研究発表】

第13回茨城県統計大会に出席して

鹿島郡旭村立旭中学校教諭 高 柳 照

菊香る良き日11月5日、文化センターで、第13回茨城県統計大会が開催されました。この会は統計に功労のあつたかたがたと、第22回茨城県統計グラフコンクール入選者の表彰が主とされるものです。私は統計グラフの方で出席させていただきました。席上、岩上知事は「日進月歩の社会経済情勢の激動する現代において、これに対応する指針となり、また現状を正しくは握し、これに基づ

き将来を展望する計画策定の礎石となるものはまさに統計であります」とのべられています。現在の学校教育の中でも統計のしめる分野は幅広くなつて来ていますが、私が統計教育と関係をもつようになったのは、今から9年前旭中学校が3か年の統計教育指定校を引き受けた時からです。その当時は先生方が統計教育とはどんな事なのかかわからず校長先生を始めとして、全職員で統計教

育の理解に努めました。統計教育先進校の見学やら各種統計大会への出席、教育書の購入伝達等たいへんなものでした。でも、3か年の完結発表をする頃には先生も生徒もすっかり統計教育が身につについて、自分たちの生活の中に統計を生かして行く事が出来るようになりました。統計グラフコンクール応募もその時からです。統計グラフ作成も始めはなかなか技術面や、資料の選び方等がたいへんでしたが、既存統計から自分たちの生活の中に目をむけるようになり、身近な学校生活や、村の農業のあり方、農村の諸問題等から統計グラフを作るようになりま

したが、まだまだ自分たちの身の回りに統計調査をして考えなければならぬ問題が数多くあるようです。今後さらに正確適正な統計グラフが作れるよう努力をして行きたいと思えます。今年は会場が大きくずいぶんゆつたりした会場でした。そこで結城市立江川南小学校のかたがたとともに旭中の統計グラフの作り方についての発表も聞いていただきました。ともすれば私自身統計に対する意志のぐらつきます時、統計大会に出席しましてさらによい統計グラフを作つて行こうとする意志を強くいたしました。

解析研究会の開催

1. 商工統計解析研究会

統計を深くみつめると非常に奥の深いもので、統計に関係するわれわれ職員においても、日常の業務の中で常に勉強が必要であり、その一端として解析研究会を毎年2回実施している。

46年度第1回の研究会は、10月8日国保会館において、通商産業省統計解析課奈良部志保子班長を講師に招き、鉱工業生産指数に関する講話と討議を行なった。

鉱工業生産指数は、毎月生産動態統計調査として、事業所から報告をいただいているものを基礎として、国および県において毎月の生産の動きを指数とし公表し、特に国においては月例経済報告として閣議にはかり、景気の動きを示す指標として重要視されているものである。

ことに44年9月物価安定を目的とする金融調整措置により景気停滞色を示して以来、46年5月の生産伸び率の低下と、これらの是正処置、46年8月15日のドルショックと、景気激変の産業界にあつては、これら生産の動向を正しく、早く知るためには、抽出調査による生産を正

確に指数化し、公表することがわれわれの職務であるわけです。

このようななかにあつて、今回の解析研究会は県の鉱工業生産指数作成のための研究会で、その内容は

1. 指数について
 - (1) 指数の意味と性質
 - (2) 通商産業省関係経済指標とその利用
2. 指数の種類
個別指数(品目指数)と総合指数
3. 指数のつくり方について
基準時、ウェイト、算式、季節調整
4. 指数改訂の手順

についてであり、参加した県統計課および庁内関係課職員ならびに一部市町村職員などあわせて約30人が終日熱心に勉強し、多大の取かくをおさめることができた。

(県統計課商工統計係)

2. 法人企業統計解析研究会

10月20日に、水戸市梅香町ときわ荘で、法人企業統計解析研究会が開催された。

この研究会は、別項の商工統計解析研究会とともに、主として県統計課職員を対象に、統計の結果解析の手法等について研究するため、開催されたものである。

法人企業統計は、県内で活動する営利法人を対象に、標本調査の方法で、毎年実施されているもので、調査事項は、主として法人の決算事項(貸借対照表や損益計算書)となつている。

この法人企業統計を実施し、その結果を解析するうえで生ずる諸問題について研究すること、これが、こんどの研究会のねらいである。

そこで、今回は、はじめての研究会でもあることから、法人企業統計の企画設計に関する基礎的事項について研究することにし、次のテーマを取り上げ、それぞれ

のテーマにふさわしい講師をお願いした。

企業会計のしくみと財務諸表(講師 県商工労働部経営指導課主査兼商業診断係長 久野尚氏)

法人企業統計の諸問題(講師 行政管理庁行政管理局統計審査官 助川宏氏)

研究会に参加したのは、県統計課職員と一部の市町村の職員を合わせた25人であつた。

久野講師は、多年、企業経営の指導に当たつている豊富な経験を背景に、受講者にはなじみの薄い企業会計の考え方や財務諸表の見方について、懇切な手引きをされた。また、助川講師は、各省庁の統計を審査している広い視野に立つて、企業に関する諸統計の紹介、解説をされ、さらに企業統計の実施上生ずる各種の問題についてその対策を示唆された。(県統計課県勢統計係)

工業統計・工業実態基本調査等の実施について

県統計課商工統計係

毎年12月31日を調査期日とする工業統計調査を実施するため、既に市町村事務担当者会議を実施いたしました。が、本年は特に第4回工業実態基本調査が行なわれ、茨城県工業実態調査と3つの調査が実施されますので、その概要をお知らせいたします。

1. 工業統計調査（指定統計第10号）

わが国における製造業に属する事業所を悉皆調査するいわゆる製造業に関する国勢調査です。

この調査には知事の任命をうけた県内500余名の工業統計調査員が事業所にお伺いし、調査票の配付収集を行います。事業所の責任者（申告義務者）は自ら記入して申告する義務があります。

2. 第4回工業実態基本調査（指定統計第93号）

中小企業の実態を明らかにし、中小企業の経営の合理化、近代化の指針に役立たせるための資料を得ることを目的とする調査です。

これは標本調査で製造業のうち172業種に属する通商産業大臣が指定する1,470の企業について行ないます。工業統計調査と同時に調査員が調査票の配付収集を行ないますので申告してください。

3. 茨城県工業実態調査

本県製造業の主体をなす重工業部門の下請の実態を調査するため従業者4人以上の事業所を対象に第4回工業実態基本調査の項目の一部を調査するものです。

また、調査対象は第4回工業実態基本調査との重複をさけておりますので調査にご協力ください。

統計ニュース

◇ 12月の主な行事 ◇

- 1～2日 家計調査員打合せ会
- 1～3日 昭和46年工業統計調査市町村打合せ会
- 6～8日 昭和46年小規模事業所給与等実態調査説明会
- 8～17日 昭和47年農業基本調査市町村説明会

- 9～10日 常住人口調査市町村事務打合せ会
- 31日 昭和16年工業統計調査日
- 〃 昭和46年小規模事業所給与等実態調査日
- 〃 昭和46年貯蓄動向調査日

■ 統計グラフ全国コンクールの結果 ■

全国統計協会連合会主催による第19回統計グラフ全国コンクール審査会は、10月18日、東京で行なわれた。

その結果、入選作品が決定され、各都道府県統計協会を通じて、入選者に賞状と賞品が授与された。

このうち本県関係の入選作品は、第1部（小学校の児童）で、八千代村立安静小学校1年の高橋まゆみさんの

作品「きれいなたべもの」が佳作に、第2部（中学校の生徒）では、結城市立結城中学校2年の久須美厚子さんと小河原康子さんの合作「中学生の海外旅行熱」が第6席に、また、結城市立山川中学校2年の渡辺阿紀さんの作品「生きがいとは……中学生は考える」が佳作となり、相変わらず全国でトップレベルの成績をおさめている。

■ 昭和46年版 茨城県勢要覧 ■

予約受付中です

さらに内容が充実しました。お申込みはお早めに！

1 定 価

450円

2 刊行予定

1月中

3 申込み先

水戸市三の丸1-5-38

茨城県統計課内

茨城県統計協会

TEL 0292 (2) 5505